

第2回（10月） 会議録（主な意見）

○子供が中学校を卒業した保護者においては、地域との関わりが途絶えてしまう現状があるので、公民館において青・壮年部を設けることで、地域の活動に取り込みたい。

○今まで地域が、青壮年層の地域への参加の場を積極的に設けてきたわけではないという反省のもと、地域の活動に取り込む方策を検討していきたい。

○若者や青壮年層を 団体活動、地域活動にどう関わってもらおうかというようなことが、一つ大きな柱になるのかなと思っている。

○若者がコミュニティを求めないのではなく、見えないところでコミュニティがたくさんできている現状がある。その中には、青年団という伝統的な名前を使わずに、自分たちで自発的に団体を作って一から始めたいという人も結構いる。新しくできた見えづらいコミュニティといかにつながっていくのが大切であり、白山市青年団協議会は地域に入り込み、つながりを持ちながら若者を協議会に取り入れていった。

○宇出津を活性化したいということで、「宇出津活勢会」という若者のグループができた。仲のいい20代の若者が地域を元気にしたいという思いから、青年団という団体にとらわれず、自分たちで活動していることは、町としても非常に嬉しい思いなので、何とか支援をしていきたいと思っている。

○団体は高齢化している、そこに若い世代の思いをどうやって反映させて団体活動を進めていくのかというのは、それぞれの団体の課題だという気がしている。

○人口減の中、活動を継続していくためには、より多くの人に団体の活動を理解していただく必要がある。そのためには、自分たちの団体の原点に立ち戻り、目的を再考し、団体の存在意義や組織、活動内容等を再検討する。その上で、青壮年層等にしっかり説明することが大切である。